

屋内活動

プログラム名	キャンドルセレモニー			
概要	仲間とキャンドルの火を囲み、火の大切さを学ぶ。スタンツやゲーム等を通して絆を深め、心の交流を深める。			
ねらい	友と語り、友を知り、自分を知ることができる。火を通して、火の大切さ、芯の強さ、やさしさ、温かさを再認識することができる。スタンツ等のグループ活動を通して、仲間意識を養うことができる。			
条件	対象	全年齢	人数（指導者人数）	～200人（2人以上）
	活動目安時間	90～120分	活動時期	通年
	活動場所	体育館・研修室1	費用	600円（大ろうそく）
	下見	要	活動名簿提出	不要
持ち物・準備	（個人）飲料 （団体）ろうそく、スタンツに必要なもの （貸出）衣装（3人分）、うちわ・杖、アンプ、CDラジカセ、延長コード、チャッカマン、片付け用具、消火用具、キャンプソングCD（収録曲はキャンドルセレモニーの手引きへ記載）大ろうそく、燭台（大）（小）（中央）、床用シート			
安全上の留意点 （対策方法）	火傷（ろうそくの扱いについて事前指導を徹底、衣装に火が燃え移らないように注意） 暗闇での転倒、接触（シートの上で走らない） スタンツ中のケガ（シートを敷いていることを考慮し、無理なスタンツ構成をしない） 燭台運搬時のケガ（声をかけながら運ぶ、必ず状況を監視する） 燭台の金具でのケガ（運搬時・片付け時の注意を徹底、人に向けない） 火災（ろうそくの扱いについて事前指導と消火方法の確認を徹底、燭台（中央）は必ず台の中央に置く）			
<b>活動内容（手順）</b>				
事前①指導者配置：活動指導（準備、進行、火の神などの役割分担決定）、巡視指導（活動中の研修生の補助や指導・助言） ファイヤーキーパー（活動に応じて燭台（中央）を移動）、準備/片付け（当日準備/備品の返却、消火、シート片付け） ②下見の実施：研修生の動線及び活動場所の確認 ③実施方法の決定：第1部から第3部までの流れや休憩時間、全員で合唱する歌などの決定（進行の不明点などは要相談） ④グループ編成：活動内容に応じて、スタンツを行うグループ等編成 ⑤研修生への事前指導：「概要」「ねらい」「留意点」等の指導、持ち物の確認、ろうそくの火の扱い方の指導				
活動前①打合せ：16:00頃、事務室前で、所員と団体責任者、担当指導者にて実施 実施判断：気象を基に、協議の上決定 確認事項：人数、健康状態、貸出備品 備品をすべて持って体育館または研修室1へ移動 ②準備：活動場所にシートを敷く、放送設備・コンセント・消火器の位置等を所員とともに確認 片付けの説明：消火方法、道具類・シートの片付け、貸出備品の返却について所員とともに確認				
活動①活動場所へ移動 ②活動開始：第1部→第2部→第3部 ③確認事項：人数、健康状態 ④本館へ戻る ⑤報告：本館に戻った指導者は、所員へ活動終了、研修生の健康状態を報告 ⑥片付け（片付け担当）：活動場所のシート、備品の片付け、貸出備品の返却と確認				

<その他>

※スタンプは、キャンプファイヤーのものと併用可。ただし、走る等の動作があるものは変更する。

- 小ろうそくは5cm程度のものを準備（研修生用）
- 当日の準備（活動前①②）は研修生のキャンドルセレモニー係も指導者とともに参加すること。

役割①火の神 …1人

→営火長(うちわ又は杖を持って入場)

②火の御子…2人

→火の神の先導役(燭台(大)を持って入場)

③献詞者 …研修生や班の数に応じて人数を決める

→聖火をいただく代表者

《例》	活動内容	留意点
第一部 (セレモニー)	○ロビーに研修生を整列させる ○小ろうそく、燭台(小)を配布する	○活動終了後の流れを事前に指導しておく ○厳かな雰囲気を保ち緊張感を持たせる ○火の神、火の御子の着替えは別室で行い、研修生に見つからないよう待機する
	○研修生は体育館に入場し燭台を囲むように円形に並び ○研修生が体育館へ入場後、火の神、火の御子は体育館入口に移動し待機する	○研修生の入場は配置を決めておき、一列で入場するとよい ○火の神、火の御子の入場通路と定位置は空けておく ○私語は禁止し静かに待機させる
	<p>《司会》</p> <p>キャンドルセレモニー第一部を始めます。                      (一呼吸おいてから)</p> <p>今日一日、私たちの活動を強く照らし続けていた太陽も西の空に沈み、夜のとぼりが下りてきました。私たちの集いを始めるために「遠き山に日は落ちて」を歌い、火の神を迎えましょう。</p>	
	○研修生は歌を歌い、火の神、火の御子を迎え入れる ○歌が始まったら火の御子の大ろうそくに点火する ○火の神、火の御子は研修生の円の中をゆっくりと1周半して定位置につく	○体育館入口にチャッカマンと消火バケツ1つを用意しておく ○火の神は火の御子の後ろで逆三角形の隊形になって入場する
	<p>《司会》</p> <p>(火の神、火の御子が定位置についてから)</p> <p>「分火、誓いの言葉！」 献詞者は火の神の前に整列しましょう。</p>	
	○献詞者は火の神の前に横一列に整列する ○献詞者は火の神から献詞の言葉、火の御子から分火をいただき、誓いの言葉を述べる	○火のもらい方に注意し、火傷に気を付ける ○火の神、献詞者は堂々と大きな声でゆっくり丁寧に言葉を述べる
	<p>《火の神》</p> <p>①あなたには生命の火を与えます      ②あなたには情熱の火を与えます                      ③あなたには挑戦の火を与えます      ④あなたには友情の火を与えます                      ⑤あなたには奉仕の火を与えます      ⑥あなたには協力の火を与えます                      ⑦あなたには信頼の火を与えます      ⑧あなたには感謝の火を与えます</p> <p>《献詞者》</p> <p>①私は生命の火をいただきました。与えられた命を大切に、元氣よく生活することを誓います。                      ②私は情熱の火をいただきました。何事も一生懸命取り組むことを誓います。                      ③私は挑戦の火をいただきました。これから先、どんな高い壁に当たっても逃げずに立ち向かうことを誓います。                      ④私は友情の火をいただきました。この夜のように美しい心を持ち、友達を大切にすることを誓います。                      ⑤私は信頼の火をいただきました。どんな時も相手を信頼し、自分も信頼してもらえる人間になります。                      ⑥私は協力の火をいただきました。一人では乗り越えられないことも、仲間と力を合わせて成し遂げます。</p>	

- ⑦私は希望の火をいただきました。今日の良き思い出を忘れず、一步一步前進することを誓います。  
 ⑧私は感謝の火をいただきました。いつまでも感謝の気持ちを忘れないことを誓います。

〈司会〉

(火の御子、献詞者が中央燭台を中心に集まってから)

点火を行います。「点火！」

○献詞者が分火をいただいた後、火の御子、献詞者は燭台(中央)を中心に円形になって集まり「点火」の合図を待つ

○司会の「点火」の合図で燭台のろうそくに点火する

○火の御子は燭台(大)の大ろうそくに点火したら、燭台(大)ごと燭台(中央)にろうそくを立てる。

○献詞者は燭台(中央)のろうそくに点火したら、手に持っていた燭台(大)を持って最初に火をつける研修生の左隣に行き、分火の火をつける。分火の火をいただいた研修生は右隣の研修生に順々に分火の火をつけていく

○献詞者が燭台(中央)のどこに点火するか決めておく。火の御子が点火する場所には燭台(大)ごとろうそくを立てるため空けておく。

※第3部で、火の神の火となるため、取りやすい場所に立てるようにする。

○献詞者がどの研修生から順に点火していくかを事前に決めておく

〈司会〉

(研修生全員に火が行き渡ったことを確認後)

みんなで「燃えろよ燃えろ」を歌いましょう。

(歌が終わってから)

「火の神の言葉！」 火の神お願いします。

〈火の神〉

私は、三々日のお山に住む火の神です。

火は遠い昔から、私たちに生きることの喜びや、勇気を与えてくれます。火は自らを焼き尽くしながら、光と熱を私たちに与えてくれます。火は、私たちの生命ともいえるものです。このことは数千年の昔から私たちの祖先が火を守って、ある時は獣や外敵から身を守り、モノを作ることを教え、また、明るくすることを考えてきました。私たちはこの暗闇に光を与えてくれる炎のように世界のすべてに明るさと希望を与えることを共に誓いたいと思います。そして、この炎のもとで、私たちは友情と親睦を深めあい、今後の活動をより大きく意義のあるものとして行こうではありませんか。

〈司会〉

火の神、ありがとうございました。

続いて第二部を始めます。みんなで盛り上げていきましょう。

○司会の合図で歌を歌う

○火の神は軽く一歩前に出て、火の持つ意義や歴史自然との関り、人生観などを2～3分で話す

○第一部終了後、研修生の小ろうそくの火を消していく

○燭台(中央)の大ろうそくの火をいったん消し、隅に移動する

○台詞をしっかり覚える(うちわに貼っておいてもよい)

○研修生の小ろうそくと受けは分別回収する

○火の神、火の御子が研修生の場合は着替えを行う

○第二部の内容に応じ、シートをいったん取り除くなど、つまずき防止策を行う

<p>第二部 (スタンツ・レク)</p>	<p>○レクリエーション 歌を歌ったり体を動かしたりするゲームを実施する ＜レクリエーションの例＞ 「ゲーム」「アブラハムの子」「線路は続くよどこまでも」 「アルプスじゃんけん」</p> <p>○スタンツ 1グループ 3～5 分程度 ＜スタンツの例＞ 「ダンス」「寸劇」</p> <p>○歌 二部終了に向けて、だんだん静かな歌にしていく ＜歌の例＞ 「大きな栗の木の下で」「おもちゃのチャチャチャ」 「シャボン玉」「赤とんぼ」「もしもしカメよ」 「大きな古時計」「虫の声」</p>	<p>○火の神、火の御子は第三部に備えて第二部終了前に着替える</p> <p>○第二部でシートをいったん取り除いた際には第三部開始前に再度シートを敷く</p> <p>※第3部で燭台(中央)と火の神のみが火を付ける場合は、燭台の周りと火の神の通り道のみでも可</p> <p>○第二部終了後、燭台(中央)を戻し、燭台にある半分のろうそくに火をつける</p> <p>※灯火にしてい</p> <p>○火の神が指導者の場合は定位置で見届ける</p>
<p>第三部 (セレモニー)</p>	<p>○火の神の言葉(終わりの言葉)</p> <p>＜司会＞ 第三部を始めます。 (一呼吸おいてから) 「火の神の言葉！」 火の神お願いします。</p> <p>＜火の神＞ 楽しい集いの間、私たちを見守ってくれた炎は、今や静かに消え行こうとしています。炎は私たちの胸に、いっそう激しい青春の情熱と、仲間意識を残してくれたことと思います。私たち全員心を合わせ、無事今日の日を終えたことを、お互いに喜びたいと思います。これからの長い人生のほんの一角にすぎない、この青年の家での一夜ではありますが、ここで静かに、今までの活動を振り返り、ここに灯され、ここに生まれた友情の火を、いつまでも灯し続けていってほしいと思います。そしてより大きな火へと成長することを祈りつつ、この集いを終わりにします。</p> <p>＜司会＞ 火の神ありがとうございました。火の神、火の御子が退場します。みんなで「今日の日はさようなら」を歌って見送みましょう。</p> <p>○研修生は歌を歌い、火の神、火の御子を見送る</p> <p>○火の神は全体のまとめや感想、激励の言葉を2～3分で話す</p> <p>○火の神は燭台(中央)から第1部で火の御子が立てた大ろうそくを持った後、残りの火をすべて消し、火の御子と一緒に研修生の円の中を1周半して退場する</p> <p>○火の神は体育館入口で研修生が見えない位置で火を消し、ろうそくを回収する。</p>	<p>○私語は禁止し静かに待機させる</p> <p>○火の神が先頭で火の御子はその後に三角形の隊形で退場する</p> <p>○消火後、火の神、火の御子は研修生に見つからないよう別室へ移動し着替えを行う</p>

	○研修生退場(本館へ移動)	○厳かな雰囲気壊さないよう指導者からの連絡事項は控えて本館まで静かに移動する
--	---------------	--

「遠き山に日は落ちて」

遠き山に日は落ちて 星は空を散りばめぬ  
 今日のわざをなしおえて 心かるくやすらえば  
 風は涼しこの夕べ いざや楽し まどいせん まどいせん  
 (1番は歌詞、2番以降ハミング)

「燃えろよ燃えろ」

燃えろよ燃えろよ 炎よ燃えろ  
 火の粉を巻き上げ 天まで焦がせ

照らせよ照らせよ 真昼のごとく  
 炎よ渦巻き 闇夜を照らせ

燃えろよ照らせよ 明るく熱く  
 光と熱との もとなる炎

「今日の日はさようなら」

いつまでも絶えることなく 友達でいよう  
 明日の日を夢見て 希望の道を

空を飛ぶ鳥のように 自由に生きる  
 今日の日はさようなら また会う日まで

信じあう喜びを 大切にしよう  
 今日の日はさようなら また会う日まで また会う日まで

※その他、レクリエーションや曲についてはインターネット等でも確認できます。

※歌については司会の合図ではなく、司会が歌い始めたら歌うほうがスムーズで望ましい。

◎貸出 CD 収録曲

1. キャンプだホイ
2. 森のくまさん
3. すいかの名産地
4. アルプス一万尺
5. 静かな湖畔
6. ピクニック
7. 大きな歌
8. おお、牧場は緑
9. 線路はつづくよどこまでも
10. フニクリ・フニクラ
11. おおブレネ!
12. 森へ行きましょう
13. わらの中の七面鳥
14. ゆかいな牧場
15. アブラハムの子
16. 切手のないおくりもの
17. 山賊のうた
18. 遠き山に日はおちて(家路)
19. 大きなくりの木の下で
20. 手のひらを太陽に
21. しあわせなら手をたたこう
22. おどろろ楽しいポーレチケ
23. ともだち賛歌
24. メドレー 星かげさやかに / 燃えろよ燃えろ
25. 今日の日はさようなら

## <注意事項>

### ①火のもらい方について

火をもらうときは、火のついているキャンドルは動かさず、火のついていないキャンドルを動かして火をもらうようにする。火のついているキャンドルを動かすと、蝋が落ちたりしてやけどの原因となる。

### ②消火について

ろうそくの消火を行うときは、指先で炎をつまむようにして消す。

それが怖い場合は、手で仰いだり、静かに息を吹いて消火しても構わない。

### ③シートの片付けについて

シートにろうそくのろうが垂れたままシートをたたむと、ろうが固まってしまうため、シートのろうを取ってから片付けるようにする。

## <よくあるQ&A>

Q:所員は活動に同行しますか。

A:しません。16:00～の準備の際に、活動場所で片付け方や、疑問点などを所員とともに確認します。

Q:第2部の内容は、キャンプファイヤーと同じものでいいですか？

A:はい。大丈夫です。但し、床にシートを敷いているため、シートにつまづく恐れがある内容の場合は、変更またはシートをいったん取り除いてから開始するようお願いいたします。

Q:スタンツの寸劇はどのようなものを行えばいいですか？

A:セリフなどが良く聞こえなくても、全体に「何をやっているか」がわかる内容が良いです。また、おとぎ話やアニメ等のアレンジをしたものが分かりやすいです。

Q:スタンツの指導はどのように行えばいいですか？

A:以下に注意して指導しましょう。

①中央に火があるため、火の一方だけではなくまわり全体を舞台とさせる。

②セリフは大きな声でゆっくりと、動作も大きく表現させる。

③火があることを意識し、激しすぎる動きや危険と思われる行動は避けさせる。

④練習は分かれて行い他の班に内容ややり方を内緒にする。(同じ場所で練習すると、他の班の内容が分かって当日までに関心が薄れ、本番の時に自分の班のスタンツの出番・役割に関心が向いてしまうため)

Q:火の神、火の御子の衣装はいつ借りれ、また、どのようなものですか？

A:衣装は3人分までです。火の神は草冠、うちわ又は杖、腰ひも、シーツで1セットです。火の御子はうちわ又は杖がない以外は火の神と同じです。



(うちわ)



(杖)

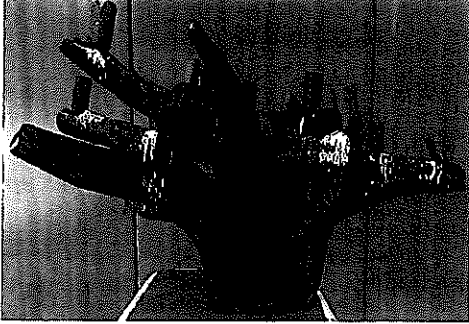
Q:手に持つ燭台はどんなものですか？また、火のもらい方はどうですか？

A:写真を参考にしてください。

燭台(大)が火の御子、献詞者が持つもので、燭台(小)が研修生が持つものです。

燭台(中央)は、集いの際に中央に配置するものです。

火のもらい方は火のついているほうを立てたままにして、もらうほうを少し寝かして火をもらいます。



燭台(中央)



燭台(大)

燭台(小)